

# 阿嘉島の蝶 part 6

## マダラチョウ科の蝶の特殊な摂餌行動 -フェロモン前駆物質の取り込み-

上林 利寛

AMSL 調理担当

Butterflies in Akajima Island, Part 6

Feeding behavior of butterflies (Family Danainidae) to gain the precursor of pheromone

T. Kamibayashi

マダラチョウ科の仲間は熱帯や亜熱帯に広く分布し、阿嘉島ではアサギマダラ、リュウキュウアサギマダラ、カバマダラ、スジグロカバマダラ、オオゴマダラ、そして近年定着しつつあるツمامラサキマダラ（台湾亜種の定説がある）を観察することができます。しかし、スジグロカバマダラは幼虫の食草であるリュウキュウガシワが島に自生していないことと、成虫を観察できる期間が短いことから、阿嘉島で観察できる本種は分布域である先島諸島からの迷蝶であると推測できます。また、カバマダラも幼虫の食草トウワタ（元来栽培種だが、沖縄各地で帰化している）が阿嘉島で少ないこと、成虫の観察できる期間が短いことなどから、一時的発生が近くの分布地である渡嘉敷島あたりから飛来してきたものと思われる。

このマダラチョウの仲間の求愛と配偶行動は一風変わっていて、雄は雌の頭上前方でホバリングをしながら腹端にある毛の束（ヘアペンシル）を出し入れしてフェロモンをまきちらし、あるいは直接雌の触角に付着させ、葉上に半ば強制着陸させてから交尾行動にはいると言われています（写真1）。「原色日本蝶類生態図鑑（ ）」によると、海外のマダラチョウの一種は、ムラサキ科、キク科、マメ科の植物から、このフェロモンの前駆物質を吸収しているそうです。これに似た行動を阿嘉島の海岸に自生する



写真 1. リュウキュウアサギマダラの求愛行動：2匹の雄（左側の上と下）が葉上の1匹の雌の頭上でホバリングを繰り返す。（ニシハマにて）

モンパノキ（ムラサキ科）（写真2）で観察することができます。吸汁に訪れるのは雄だけで、アサギマダラとスジグロカバマダラの2種を観察

しました（写真3）。また、カバマダラとリュウキュウアサギマダラもモンパノキの樹皮や枝に口吻を伸ばす行動をとるので、同じようにフェロモンの前駆物質を体内に取り込んでいるのかもしれませんが。一方オオゴマダラのモンパノキでの吸汁行動は観察したことがありませんが、雨上がりの雑木林の中でイタジイ（ブナ科）の木の枝に流れる露を吸引する2匹の個体を観察したことがあり、これもまた類似した雄の営みなのかもしれません（写真4）。



写真 2. モンパノキ（ムラサキ科）：海岸の砂地や岩上に多く見られる高さ2~5mの亜高木。沖縄の漁師（海人）は、この木を木枠にして水中眼鏡を作る（マエノハマにて）。



写真 3. モンパノキ（ムラサキ科）の切り株に口吻を伸ばすスジグロカバマダラ。この写真の2匹とも雄で、後翅に性斑（ウイングポケット）があるため雌との判別は容易である（マエノハマにて）



写真 4. イタジイ（ブナ科）の木の枝に流れる露を吸引するオオゴマダラ（アゴノハマの林道にて）。